

# チャレンジネット

第2号

平成29年7月13日  
富山県立富山総合支援学校  
進路指導部

「高等部における進路指導の取組について」

高等部主任 高橋 健

高等部の進路指導の一環として、3年生は3週間の就業体験及び生活体験、2年生は2週間の就業体験を6月に実施しました。学校や家庭で身に付けた知識や技能を、企業や福祉施設という実際の場面で実践・確認するとともに、体験を通して明らかになった課題や評価を今後の学習面や生活面の改善に活かす良い機会です。就業体験・生活体験を充実したものにするには、保護者の方の協力が欠かせません。また、体験を機会に、卒業後の生活をイメージした家庭での支援を考えることは、生徒の将来の自立・社会参加に向けた準備という点でも、非常に意義のあることです。

進路決定のためには、進路先となる企業や福祉施設の情報はもとより、普段の生活に関わる障害福祉サービスの仕組みや内容など必要な情報がたくさんあります。保護者の方々とそれらの情報を共有し、連携を取りながら、卒業後の進路選択・進路決定に取り組んでいきたいと考えています。

## 高等部就業体験・生活体験

☆就業体験・生活体験を行いました。

高等部2年生 就業体験先 (6月12日～6月23日)

<企業等>

- ・株式会社元尾商店
- ・有限会社まいけ なごなるの家
- ・株式会社ユニオンランチ

<就労支援事業所>

- ・SAKURA富山センター
- ・就労継続支援A型事業所アシスト
- ・就労移行支援事業所えみふる
- ・障害者就労継続支援施設いずみ



高等部3年生 就業体験・生活体験先 (6月5日～6月23日)

<企業等>

- ・富山総合ビルセンター株式会社
- ・富山大学総務部キャンパスクリーンチーム
- ・有限会社高田製本紙工所
- ・松屋フーズ株式会社

<就労支援事業所>

- ・就労継続支援A型事業所ひまわり
- ・就労継続支援A型事業所オアシス砺波
- ・就労継続支援事業所分々
- ・多機能事業所ステップ

<生活介護事業所>

- ・多機能型施設ジョブステーションさくら
- ・NPO法人あかりハウス
- ・NPO法人ふるさとのあかり
- ・つくじの家婦中
- ・多機能型事業所このみ
- ・NPO法人あかりハウス
- ・富山福祉生協ぼらハートのいえ
- ・多機能型事業所あゆみの郷



体験生徒の感想・保護者アンケートより

配膳準備、お茶出し、洗濯、ドライヤー掛けなどの体験をしました。コミュニケーションをとるときは、相手の顔を見た方がいいとアドバイスされました。これから、気を付けていきたいです。(就業体験・生徒)

一番気になっていた入浴体験は、一緒に見学させてもらいました。安全にスムーズに入浴している様子を見て安心しました。卒業後の生活が、健康で楽しく過ごせるよう親子で考えて決めていきたいです。(生活体験・保護者)

清掃や皿洗い、食材の補充をしました。大きな声で恥ずかしがらずに、「いらっしゃいませ」と言うことができました。店の人からは、自分から動いているねと褒められました。(就業体験・生徒)

学校以外での活動で本人は少し疲れ気味でしたが、新しい環境で今までとはまた違う刺激を受けることができそうなので、いろいろな楽しみを見つけてほしいです。(生活体験・保護者)

帰宅後は、「1日どうだったか」をじっくり聞きました。楽しかったことも、大変だったことも、嫌だったこともいろいろ話して、次の日はすっきりした気分でお勤していました。(就業体験・保護者)



## 自立に向けて 小学部・中学部の授業実践より

### ○小学部の取組 ～挨拶から始めよう～

小学部では、一人一人の生活能力を高めるとともに、友達や教師との関わりを広げ、生き生きと活動できるように、いろいろな活動に取り組んでいます。

その一つとして挨拶があります。挨拶はコミュニケーションの第一歩としてとても大切です。学校の一日は「おはよう」の挨拶から始まります。初めは「おはよう」と言葉を掛けられても、なかなか応えられない児童もいます。毎日の繰り返しの中で、友達の様子を見たり、教師に認めてもらったりするうちに、相手に視線を向ける、口や手・体を動かす、声を出す、「おはようございます」と言うなど、自分なりの方法で挨拶を返してくれるようになります。「元気?」「お休みは何していた?」などの会話につながり、とてもよい笑顔を見せてくれ、人と関わることの喜びを感じている様子がみられます。

身近な教師や友達だけではなく、いろいろな人からの挨拶にも応えられるようになること、自分から挨拶ができるようになることを目指しています。

小学部 堀川 美幸

### ○中学部の取組 ～作業学習～

中学部では、生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要なことを総合的に学習する作業学習に取り組んでいます。

作業学習では、活動に取り組む上でのルールや態度を学ぶために、作業衣を身に付ける、大きな声で挨拶をする、活動終了時には作業実績を教師に報告するなど、決められた約束を守って活動しています。また、仕事に必要な知識・技能を身に付けるために、使用する道具や器具の取り扱い方を学習しています。生徒は作業工程を示した手順表や補助具を手掛かりに道具を活用しながら、できるだけ自分の力で作業に取り組むようにしています。

「紙箱作り」では、九つの作業工程を分担し、他の人と協力して働くという経験をしました。みんなで作り上げた紙箱は、食堂に納品された後、毎日の給食で使われており、その紙箱を見て「私が作った」と指さし笑う生徒の姿を見ることもあります。

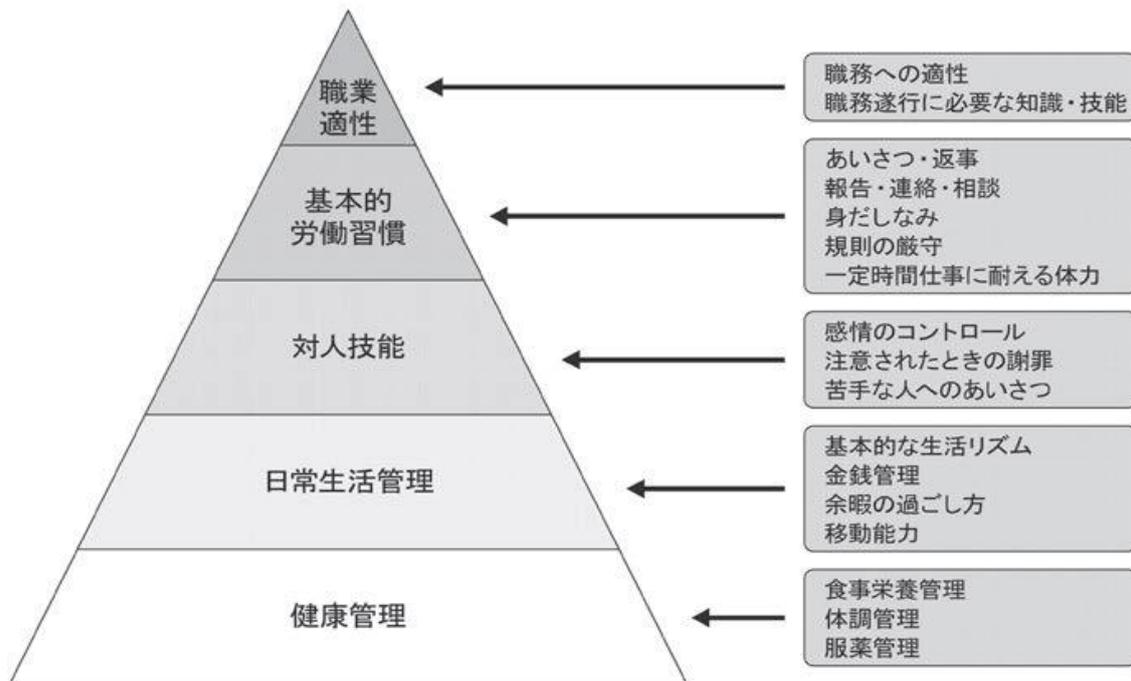
作業学習で自立に向けた知識や技能、態度を身に付けるとともに、「できた」という達成感を得ることを通して、将来への自信や意欲につながってほしいと願っています。

中学部 網 高子

## ちょっと気になる進路情報2



働くために必要なレディネスについて  
「職業準備性ピラミッド」を紹介します。



平成29年度版就業支援ハンドブック(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構)より引用

「職業準備性ピラミッド」とは、図のように、就業するために必要な基本的な力をピラミッド型に優先順位で示したものです。仮に適性のあるところに就職することができても、また、どんなに作業能力が高くても、ピラミッドの底辺から順に身に付けていないと働き続けることは難しいと言われます。働くためには、つい作業能力ばかりに注目してしまいがちですが、その土台となる、「健康管理」「日常生活管理」「対人技能」を見直し、力を伸ばしていく必要があります。たとえ、就業にいたらなくても、社会自立のために大事な力とも言えます。そして、これらの力を身に付けるためには毎日の積み重ねがとても大切です。学校や家庭において、今の段階で何ができているのか、これから何をしていかなければならないのかを一緒に考えていきましょう。